



農商工連携 滝口 恵子 Keiko Takiguchi

出身 東京都目黒区
所属 農林振興課
任期 R6.4～

協力隊にQ&A

Q.協力隊になったきっかけは？

A.前職の業務卸酒販店でお世話になっていたお客様から、町のワインプロジェクトを立ち上げた方々を紹介頂いたことです。

Q.河北町の好きなところは？

A.山形県内で一番おいしい肉そばがあるところです。冬のおやつ「あじまん」(ヤマザワ谷地店)も大好きです。

活動紹介1

農商工連携 ワインプロジェクト

河北町の農業と町の観光産業の手段として、ワインを活用した地域振興を推進することを目的としました。ブドウ栽培の補助から醸造、販売戦略までを一貫してサポートをさせて頂きました。

2024年には、南陽市の「グレープリパブリック」様に委託し、ワイン醸造を実施しました。今回は2種類のワインを生産し、デラウェアとナイアガラを使用した白ワインは565本、デラウェアを

瓶内二次発酵させたスパークリングワインは1,036本製造しました。

また、販促活動にも力を入れ、山形県内をはじめ東北、首都圏、甲信越など全国各地で新規顧客を獲得しました。アンテナショップ「かほくらし」では、7月と11月の2回にわたりワインペアリング会を開催。また、山形ワインバルや青山FM ナチュラルワインラブ(2回開催)、角打ちかほくバー(Wine bar and Nature様)、新宿葡庵様でのワイン販売会など、さまざまなワインイベントに参加し、河北町のワインの魅力をPRしました。



活動紹介2

農商工連携 クラフトビール開発

さがえ西村山農業協同組合様から農林振興課へ秘伝豆規格外利用の相談がありました。当初はリキュール製造を考えていたとのことでしたが、対応できる企業様がなく、他のアルコール商材で開発ができるかどうかご相談を頂きました。そこで豆を原材料として、製造できるアルコール飲料である、発泡酒の提案をしました。

町の特産品である秘伝豆の特徴(芳

香な香りとおほんのりとした甘み)を生かした味わいの発泡酒を開発予定です。河北町にはビール醸造所はないため、委託醸造で前職からご縁のある米沢ジャックスブルワリー様で発泡酒醸造を行う予定です。

現在のクラフトビールについては、ビール製造免許の緩和で市場拡大しており、小規模生産者が増えつつあります。小規模であるメリットで個性あふれるフレーバーの発泡酒が全国で開発されており、販促次第で町おこし商材になることも期待できます。

今後の抱負

商品開発やPRに 注力

河北町の農産物を使用した酒類商品開発、PRのための販促ペアリング会、イベント出店などを通して町の宣伝を行います。また、開発した商品について町で持続できるような仕組み作りも考えております。